

平成27年度第2回新城市地域公共交通会議 会議録

1 開催日時

平成27年10月1日（木）午前10時10分から正午まで

2 開催場所

新城文化会館3階 301講習室

3 委員（18名中16名出席）

所 属 等	氏 名	備 考
新城市長	穂積 亮次	会長
名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻准教授	加藤 博和	副会長
バス利用者代表	夏目 善之	座長
公益社団法人愛知県バス協会専務理事	古田 寛	欠席
豊鉄バス株式会社取締役営業企画部長	長縄 則之	
豊鉄タクシー株式会社取締役社長	小川 健司	
豊橋鉄道労働組合中央執行委員長	長坂 和俊	
新城市社会福祉協議会長	瀧川 正喜	代理 佐宗常治
新城市老人クラブ連合会長	佐宗 靖広	
千郷小学校PTA副会長	丸山潤次郎	監事
バス利用者代表	田村 太一	監事
バス利用者代表	原田 守	
中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	古橋 靖弘	代理 渡邊久志
愛知県振興部交通対策課主幹	小久保 信	代理 小林宣喜
愛知県新城警察署交通課長	肥田 尚幸	欠席
愛知県新城設楽建設事務所維持管理課長	高橋 秀明	
新城市総務部長	竹下 喜英	
新城市市民福祉部長	請井 洋一	

4 会議次第

1 あいさつ

2 協議事項

- (1) 鳳来北西部地区路線の見直しについて
- (2) 新城市地域公共交通網形成計画について

3 意見交換

4 その他

5 議事の結果

(事務局)

定刻となりましたので、ただ今から、平成27年度第2回新城市地域公共交通会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、新城市地域公共交通会議にご出席をいただき誠にありがとうございます。それでは早速ではありますが、次第に沿って進めさせていただきます。

始めに、会長であります穂積市長からご挨拶を申し上げます。

(新城市長)

皆さん、おはようございます。市長の穂積でございます。第2回となります公共交通会議への参加をお願いしましたところ、それぞれご多忙の中にも関わらず、万障お繰り合わせの上、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、加藤先生には、毎回遠い所から来ていただきまして、本当にありがとうございます。

ちょうど本日、新城市が合併をして10年を迎える日となり、明後日が10周年の記念式典でございます。愛知県内で2番目の市域を誇る地域でございますけれども、集落の散在、また、旧3市町村で行っていたそれぞれの交通政策の違い、あるいは路線網の分断などがございまして、合併後の大きな課題として、公共交通、特にバス路線網の再編などについては多くの労力を使いながら、まだまだ至らないところもありますが、順次整備してまいりました。また、公共交通の整備のために国からのご支援等も受けまして、様々な改革に着手してきたところであります。なお今後、学校の再編、統合なども次々と押し寄せてくることから、公共交通のあり方についてはさらなる改善、改革が必要であろうと思っております。

今日は従来から、長年の懸案でありました鳳来北西部地区路線の見直しについて御検討いただき、方向付けをさせていただきたいと思っております。また、今年度からは部署の中に公共交通係を設けまして、責任体制をより明確にして進めていく所存でございます。

今日の次の大きな議題であります地域公共交通網形成計画につきましては、来年の12月までの策定を予定しておりますけれども、国の法整備の進展に伴うこともございまして、新城市全域、あるいは近隣の皆さんとの連携関係を視野に入れて、より立体的に面的にこの公共交通網の整備を図っていかねばならないと考えております。

また、来年の春には新東名高速道路が開通いたしますので、それに伴う様々な交通環境の変化も盛り込んでいかねばならないと思っております。色々な意味で課題山積でございますけれども、一方でアンケート結果等々含めまして、地域の住民の皆さん、利用者の皆さんからの様々な要望が寄せられておりますし、今日もバスの利用者の代表のお二人がお見え頂いておりますけれども、幸いにそうした声が具体的に挙がってくることになり、この公共交通会議の中で取り上げていただくことになりました。より使いやすい、利便性の高い公共交通網を作っていくことは、我々の変わらぬ使命であると思っております。今日の公共交通会議がこの新しい形成計画に向けての土台となることを希望しながら、ご挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。次に副会長であります加藤先生から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(加藤副会長)

こんにちは。名古屋大学の加藤です。今日が合併10周年ということで、おめでとうございます。私は合併前の新城市の計画に携わりましたから、もう10年以上ずっとやっているわけで、決して早いわけではないですが、着々と整備はされてきたし、今日、網形成計画の話が出てますが、その前の連携計画は日本で3番目に作って、ずっと着実にやってきたと思います。ただ、世の中の状況は、どんどん動いている訳だし、皆さんの動きがどんどん活発になったりして、そういうところから見たときに飛びぬけて早いというわけではないです。早ければ良いというわけではありませんが。

その中で今、小学校の話であるとか新東名のことが出ましたが、そういうことに対応して、公共交通をどのように良くしていくか。公共交通を良くすることは目的ではなくて、それを基にこの地域でずっと暮らしていける、あるいはできる限り多くの人に魅力をアピールして、ここに住んだら幸せに豊かに暮らせるという地域にするための一つの基盤として公共交通が位置付けられるようにするにはどうしたら良いかということを実地で議論されていると思います。それをサポートするのがこの会議であり、こんな作ったら役に立つよとか、ここはこうしたら良いよということを引きちんと詰めていくということであると思います。

また、大事なものは、利用者や地域の皆さんと全然関係なく、お金はこれだけしかないから、やむを得ない場合にはこれで乗れということになるのではなく、その場合でも、これだけのお金しかない時に、どのようにそれを使って、皆で調整して、どういうふうに動いたら良いのかということをお考えないといけない。そのためにこの会議はあるので、これからますます、利用者とか地域の皆さんのお考えをぜひ聞かせていただき、一方で「全体としてこうしましょう」という意識共有をすることをやっていかなければいけないと改めて思っております。引き続き、私もお手伝いができれば良いなと思っておりますし、今日もそういう話が出てくると思いますが、ぜひ活発な議論をよろしくお願ひいたします。

(事務局)

ありがとうございました。次に欠席のご連絡をいただいております委員の方を報告させていただきます。

- ・公益社団法人愛知県バス協会専務理事 古田様
- ・新城警察署交通課長 肥田様 です。

なお、市長は他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

それでは協議に入らせていただきます。これからは、座長の取り回しにより会の進行をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(座長)

よろしくお願ひいたします。それではさっそく、協議事項の1番「鳳来北西部地区路線の見直しについて」をお願ひいたします。

(事務局)

それでは、協議事項の(1)、鳳来北西部地区路線の見直しについて説明させていただきます。

始めに鳳来北西部の位置関係について少し説明させていただきますので、協議資料1をご覧ください。前に、バスマップで説明をさせていただきます。

バスマップの上段の中央付近の地区を起点として「塩瀬線」「布里田峯線」「田口新城線」「本長篠海老線」が走っており、この地区を鳳来北西部と呼んでいます。

この地区には3つの小学校があり、塩瀬線及び布里田峯線の沿線には「鳳来西小学校」、田口新城線及び本長篠海老線の沿線には「連谷小学校」、「海老小学校」があり、バスを利用して通学しております。しかし、この3つの小学校は平成28年4月から、「鳳来寺小学校」へ統合されることになっています。鳳来寺小学校の位置は、田口新城線を南へ下っていただき、バスマップ中央やや上の、大栗平バス停あたりにあります。

この広域なエリアの小中学生の登下校の交通手段として、バスが重要な役割を果たしておりますが、学校統合に伴い鳳来西・連谷・海老小学校へ通学している小学生は、28年4月からスクールバスで鳳来寺小学校へ通学することとなり、小学生の登下校にバスは利用されなくなります。

これまで、小学生の登下校に支障が出ないように時刻表などを設定していたため、同じ路線を利用して、鳳来総合支所付近にある鳳来中学校へ登下校する中学生や、通院・買い物などへ出かける高齢者のニーズには合致していない部分もありましたので、今後も利用される中学生・高校生・高齢者の利便性の向上を図るため、路線の見直しを行うものです。

それでは協議資料1をご覧ください。始めにアンケート調査結果から得られたご意見などについて説明します。前回の交通会議でご協議いただきましたように、見直し案の作成にあたり利用者の声を詳細に把握する必要がありましたので、対象者を1ページの中段、「1対象者」のとおり分類し、アンケート調査を実施しました。

つきまして、「2調査結果の概要」であります。

①の中学生から頂いた意見の中でとても多かった意見が、土曜日の部活動終了後に利用できるバスが無く、大変不便であるという意見でした。鳳来北西部地区の生徒は、田口新城線や本長篠海老線を利用して下校しておりますが、土曜日の下校時間帯に運行している便が、本長篠駅前を13:50に出発する便しかなく、午前中に部活動が終了しても長時間バスを待たなければならない状況となっております。

他にも布里田峯線や塩瀬線を利用する生徒からは、土曜日に部活動へ出かける際のバスが無い、という意見が、また、四谷・連谷地区の生徒からは、海老車庫前バス停で下車しても公衆電話が無く困っている、海老車庫止まりのバスを滝上バス停まで運行してほしい、という意見がありました。

次に②の16~18歳の方から頂いた意見としましては、具体的なお意見はあまりいただけませんでしたが、運行回数を増やしてほしいという意見が見られました。

このアンケート調査の結果、ほとんどの高校生は日々の通学を家族などの送迎で対応しているという状況であり、バスを利用しなくても移動できると考える方が半数を占めている状況でした。他の意見としては、19時台に利用できるSバスを望む声や、本数を増やす声、玖老勢から本長篠を経由して大海へ行くのではなく、玖老勢から大海へ直接向かう便を希望する意見がありました。

次に③の老人クラブの方から頂いた意見です。塩瀬地区の高齢者からは、玖老勢に出られる便を望む

声があり、四谷・連合地区の高齢者からは、現在バスそのものが運行していないため、地区内への路線延長を希望する声がありました。

最後に④のSバス2路線と豊鉄バス2路線の利用者から頂いた意見ですが、田口新城線・本長篠海老線を利用している方々から、運行回数を増やしてほしいという意見が多くありました。また、設楽町から豊橋へ行く際にバスを乗り継いで出かけている方からの意見として、豊鉄バス同士の乗り継ぎがあまり良くないという意見がありました。この他の意見としましては、小型のバスでも良いから本数を増やしてほしい、という意見や元気バスを維持してほしい、老人や障害者のことを考えた運行をしてほしいという意見がありました。

このアンケート結果の詳細につきましては、別冊でまとめてありますので、そちらにつきましても後程ご覧いただきますようお願いいたします。

このように対象者ごと、またお答えいただいた地区ごとに課題が浮き彫りとなり、

- ・中学生の課題としましては、土曜日の下校時間帯及び長期休暇時の部活動へ参加するための時間帯、
- ・高校生につきましては帰宅時間帯
- ・高齢者につきましては、布里田峯線及び塩瀬線沿線の方は玖老勢に出るための便、四谷連合地区の方は、バスそのものが運行していないことから外出する手段の確保、
- ・現在利用している方のうち田口新城線・本長篠海老線の利用者につきましては、運行回数

が主な課題であると考え、可能な限り解決できるように考え作成したものが、見直し案となります。この案について、路線別に説明させていただきますので、3ページをご覧ください。

始めに①本長篠海老線の見直し案についてであります。4ページに本長篠海老線の路線図がありますので、そちらも併せてご覧ください。

この路線の上り下り共通の変更事項としましては、現在この路線の起点・終点となっている「海老車庫前」バス停を廃止し、新たに連谷小学校まで路線を延長させたいと考えました。そして「登校日のみ」の運行となっている現在の状況を、「月～土」の運行に変更したいと考えています。

次に、「上り」の便となります、「連谷小学校」から「本長篠駅前」方面へ向かう便についてであります。時刻表をご覧くださいながら説明を進めたいので、5ページの資料1をご覧ください。資料1の左側が現行の時刻表、右側が変更案の時刻表となり、変更部分を緑色で着色してあります。

資料1の左側の黄色部分をご覧くださいとわかるように、現在本長篠海老線は「海老車庫前」バス停を出発し、玖老勢を経由して「本長篠駅前」までを運行しており、登校日に限り、一日3便運行しています。これを右側の変更案のように修正したいと考えています。まず登校日のみ運行を「月～土」運行へと変更し、バスの出発地点を全て連谷小学校に変更し、海老車庫前バス停の利用を取りやめます。そして、変更案の朝と日中の便（白抜きの1・2と記載した部分です。）、を「本長篠駅前」までの運行から「新城市民病院」まで延長させたいと考えています。これにより、この地区の高齢者の外出手段も確保できるようになると考えております。

次に「下り」の便となります、「本長篠駅前」から「連谷小学校」方面に向かう便であります。6ページ資料2をご覧ください。先程のアンケート結果の説明で少し触れましたように、中学生から頂いた意見で特に多かった、土曜日や長期休暇時に部活動を終え帰宅する際、ちょうど良い時間の便が無く長時間待たなければならぬ状況を改善することに主眼を置いて案を作成しました。

検討を行うにあたり、現在の便を効率よく運行する方法を検討したところ、豊鉄バスさんが実施した

乗降調査結果から、資料2の白抜きの1の便が、乗降調査2日間を通じて全く利用されていないことが分かりました。そこで、この便を中学生から要望の強かった時間帯へ移動させることで中学生のニーズに沿った時刻になると考え、白抜きの2の部分の時間帯を設定しました。

こうすることで、現在本長篠駅前を13:50分まで乗車できない状況が、12:50乗車可能となり、1時間早く乗車することが可能となります。併せて、この便の出発地点を新城市民病院発とすることで、先程の上りの便で朝市民病院まで出掛けた方が、午前中に用事を済ませてこの便を利用して帰宅帰ってくるということが可能となります。

なお、この便の設定に合わせ、後程説明しますSバス布里田峯線及び塩瀬線の時刻も修正しこの便へ接続させることで、この便で玖老勢に下車しても、スムーズ乗り換えて帰宅できるように修正していきます。

そして、この路線延長を実現させるためには、新たにこの地区でバスを転回させる場所を確保する必要がありますので、現在は、今年度で閉校する連谷小学校敷地を利用したいと考えています。7ページ8ページをご覧ください。今年度で閉校となる連谷小学校の敷地の現況と転回のイメージ写真です。これにつきましては、豊鉄バスさんに現場へ来てもらい、実際に現場を確認して敷地内で転回が出来ることを見てもらいました。

併せて、この場所以外の転回場所について確認した資料が、9ページ10ページとなります。連谷小学校よりも更に奥に進むと、2箇所転回が可能と思われる場所がありましたが、いずれの場所も道路敷を利用した転回であると思われることから、事前に新城警察署さんや新城設楽建設事務所さんへ相談を行いました。そして頂いたご意見などから判断して、連谷小学校での転回が最良であると考え案を作成しました。

ただ、9/25日に連谷小学校の跡地利用を検討する地元の会合に出向き、路線の延長と転回場所としての連谷小学校の利用について相談したところ、急な話であったこともありますが、まだ跡地利用は全く白紙であることや、先程説明しました10ページの写真②の場所まで、大昔は路線バスが乗入れ転回していた状況があったことから、何とかそこまで行けないか、というご意見をいただきました。従いまして、転回場所につきましてはさらに地元との協議を行う必要があると思いますので、昔利用されていた転回場所の状況確認や過去の経緯などを改めて整理した上で、地元との調整をしっかりと行いたいと考えております。

続いて布里田峯線・塩瀬線の見直し案について説明させていただきます。まず布里田峯線について説明させていただきますので、11ページの路線の位置関係を示した図と、12ページの資料3を併せてご覧ください。

始めに資料3の時刻表の見方ですが、資料3の左側にバス停の名称が記載してあります。上が出発地点で「稲目トンネル口」から始まり、表の中央の「玖老勢」若しくは「鳳来中学校」までが、運行区間となります。そして下半分は、折り返しを示しています。次に各便の欄のうち、赤色の1便2便は運行時刻が1列しか記載してありませんが、これは今回変更しない便です。一方赤色の3便のように2列で運行時刻が記載してある便は、左が現行時刻、右が変更案の時刻を示しています。

それでは時刻表の変更内容について説明させていただきます。上り下り共通の変更事項としましては、現在月～木、金、土と便ごとに異なる曜日の運行をしているものを、原則「月～土」の運行に変更したいと考えています。

次に便ごとの変更内容としまして、始めに時刻表の上半分をご覧ください。現在この地区から市街地へ向かう便は、赤の1便及び2便しかありません。今回のアンケート調査などから、もう少し外出できる環境を求める意見がありましたので、3便については「サイクリングターミナル前」止まりを「玖老勢」までに変更、4・5便についても今後高齢者のニーズを確認した上で玖老勢まで運行できる時刻を設定したいと考えています。白抜きの1、3、4の部分となります。

次に下半分をご覧ください。青色の2便4便については、小学校の通学に利用されている便のため廃止したいと考えています。そして青色の第3便（白抜きの2の部分）ですが、先程説明しました本長篠海老線の運行時刻の変更（6ページ：資料2の白抜き2の部分）に合わせ、玖老勢からの乗り換えがスムーズにできるように時刻を変更します。これにより中学生から要望の強かった、土曜日の部活動後の帰宅もスムーズにできるようになると考えています。また青色の5、6、7便についても、田口新城線及び本長篠海老線を利用して下校する生徒が、玖老勢バス停で下車した際、できるだけスムーズに乗り換えができるよう時刻を設定したいと考えています。

続いて、塩瀬線について説明させていただきます。資料4をご覧ください。上り下り共通の変更事項としまして、現在月～金、土曜日のみ運行の便が混在しておりますので、原則「月～土」の運行に変更したいと考えています。

次に便ごとの変更内容として、始めに時刻表の上半分をご覧ください。上半分のうち青色の4便を、北部線との接続及び大海駅での飯田線での乗り換えが可能となるような時刻に修正し、利便性の向上を図りたいと考えています。

次に下半分をご覧ください。赤色の1便、4便は小学校の通学に利用されている便のため廃止し、また、赤の6便は5便の時刻を調整した結果同じ時刻で調整が出来ましたので廃止します。そして赤色の第3便、白抜きの1の部分ですが、先程説明しました本長篠海老線の運行時刻の変更（6ページ：資料2の白抜き2の部分）に合わせ、玖老勢からの乗り換えが可能となるように、現在の玖老勢を経由しない運行ルートの一部を変更し、玖老勢を経由した運行をしたいと考えています。

11ページの路線図をご覧ください。現在、大海駅を出発している赤色の2、3、5便については、大海駅バス停から長楽バス停を経由して、小島バス停、塩瀬バス停方面へと運行しており、玖老勢には行っていません。玖老勢で下車した中学生は一旦布里田峯線を利用して小島まで行き、そこで塩瀬線に乗り換え下校しています。乗換えイメージは、「田口新城線または本長篠海老線」から「Sバス布里田峯線」で1回目の乗り換え、「Sバス布里田峯線」から「Sバス塩瀬線」で乗り換え2回目、という感じですが。

本年4月から、登校のみですが乗換え回数1回で中学校へ行く事ができるように変更しましたので、下校についても塩瀬線を利用する生徒の乗り換え回数を1回にしたいと考えました。13ページの白抜き部分の1及び2をご覧ください。この2つの便につきましては、大海駅を出発した後、一旦玖老勢バス停まで進み、玖老勢バス停で下車した方を乗車させた後折り返し、小島、塩瀬方面へと進むようにします。こうすることで、塩瀬線及び布里田峯線沿線の鳳来中学校の生徒は、田口新城線又は本長篠海老線を利用して玖老勢で下車した後は、それぞれのSバスへ乗車して帰宅することになり乗換えは1回となりますので、利便性の向上が図れるものと考えています。

長くなりますが、最後に田口新城線の見直しについて説明させていただきます。始めに4ページの路線図をご覧ください。この田口新城線は、本長篠海老線と路線の一部が重複している路線で、新城市民

病院から本長篠駅前、そして滝上を經由して稲目トンネルを抜けて、田口までを結んでいる重要な路線であります。前回の会議においても、平成 23 年に国の補助を受けて実施した調査結果で、玖老勢から大海駅前に直接抜けるルートを検討方針が示されていることもあり、少しでも田口新城線の利用促進を図るためにルートの見直しについても、この地区の路線見直しとセットで検討すると説明させていただきました。従いまして、今回アンケート調査を行い、その結果などを基に検討した田口新城線の状況について報告させていただきます。

2 ページの一番上をご覧ください。今回のアンケートでは、高校生からの意見で、玖老勢から大海へ行ってほしい、という意見がありました。またルート変更する上で、現在の利用者、特に通学への影響が出ないようにする必要がありますがありましたので、中学生からのアンケート結果を基に、田口から新城方面に向かう便の中で、通学に利用されていない朝の便に注目して検討を行いました。その結果が 5 ページ右側、上段に記載しました中学生利用状況の部分となります。

5 ページの資料 1、右側上段の中学生利用状況をご覧くださいと分かるように、中学生が平日利用していない便は、朝 7:30 に田口を出発する便だけであることが分かりました。そこで、この便ならば現在利用している方に影響が最も少なく、朝一番に今よりも市街地へ早く行く事が出来る便に見直すことができると考え、玖老勢から大海、そして一部バス停をショートカットし、新城東高校や新城市民病院へ早く行けるルート案を豊鉄バスさんへ相談し、実現に向け運行面や費用面などの検討を進めていただきました。

そして豊鉄バスさんから、この条件ならルート変更できるという案が提示され、それを基に、設楽町・豊鉄バス・新城市で見直しに向けた協議を実施しました。しかしながら、見直しに伴う費用の増加に対して、設楽町からは財政当局や議会への説明が困難である旨の回答となり、新城市も田口新城線の見直しに伴う費用増加に加え、本長篠海老線の路線延長実施による費用の増加、そして布里田峯線・塩瀬線の費用の増加など、これら全てを受け入れ見直しを実施し、今後これを継続するため費用を捻出し続けることは、厳しい財政状況の中では非常に困難であると判断し、田口新城線の見直しについては断念することとしました。

国の補助をいただき実施した調査や今回のアンケート結果から検討した案であり、全ての見直し案を実施出来ないことは非常に残念ですが、今後は本日見直し案としてお示しした案の実施に向け全力を注いでいきたいと考えております。

非常に長くなりましたが、以上で鳳来北西部の路線見直し案、及び田口新城線の見直しに係る検討結果について、説明を終わります。

(座長)

ありがとうございます。皆様のご意見をお願いしたいと思います。では、原田さん、お願いいたします。

(原田委員)

結局、今の説明は連谷まで入るのは難しいということですか。

(事務局)

連谷地区の方としては、地区へ入ってくれることはありがたいが、小学校の跡地利用はこれから考えるし、バスがいた時代には大代の転回場まで来ていたので、何とかそこまで来てくれるとありがたいという意見がありました。

(原田委員)

たまに、滝上のバス停に子供の帰りを待つ親御さんたちの車が停まっているのを見ます。それから、親御さんが迎えに来られない時は、上の方の子たちは自分の家まで歩いて帰ることもある。帰りの時間になると、かなり暗くてイノシシやシカに襲われてもおかしくないような道です。そこからさらに細い道に入っていかなければならないという子もいます。そういう状況を見ていたので、今日この場で言うことができれば良いと思っていました。昔、バスが入っていたのは知っていました。

(事務局)

連谷小学校での説明が終わった後、現在の公図を確認して、所有の状況を確認してみました。地元の方は自分たちで田んぼを埋めて作ったところだから使えるというご意見だったんですけども、公図を全て見ても、公衆用道路ということで県の所管となっていました。最初に作ったいきさつと現在の管理状況が違うということもあると思いますので、そこはもう一度、よく調べて、再度地元へ相談したいと思っております。ただ、バスが入ることにつきましては地区全体にとって非常にありがたいという声でした。

(原田委員)

できれば、奥まで通してあげた方が良いと私は思います。

また、私の地区の中学生から、長篠まで乗り換えなく行けるようにしてくれたということで、「だいぶ楽になりました」と言われました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

(座長)

豊鉄バスさん何かありましたら。

(長縄委員)

うちとしましては、連谷小学校の方まで乗り入れていくことについては良いとは思いますが、どうしても転回場が必要になります。スイッチバックを何回もやると、安全性の問題もあります。そういった意味では安全に転回できる場所は何とか確保していただきたいと思います。

(事務局)

資料10ページの写真2の所が、大昔バスが走っていた時にここで転回をしていたという場所になるんですが、こういった所をバスの転回場として使うことができるのか、ということをおアドバイスいただければと思うんですが。

(長縄委員)

現地を見てみないと分からないですが、ここまで行くと距離も伸びてくるといいますし、現地を見てみないと分かりませんが、警察さんがどうやって言っているのかによっても変わってくると思います。

(事務局)

警察の方にも、この写真を基に相談をさせていただいたところ、ここは道路敷なので「大型の車両が一時的に停まっていた場合どうするの」と言われて、お返しする言葉もなく、そういったことも踏まえると確実に場所が確保できそうな学校の公用地の方が望ましいというご指導をいただきました。その後、地元はこの案を下ろしてみた際にはバスが走っていたという思いもあって、やっぱり上まで欲しいという状況になりました。

(小川委員)

バスガールと言うので、ツーマンで走っていた時代なのでしょう、昭和44年くらいかな。ワンマン化が進んでいなくなりましたが。転回場については、実際に見ていないので分かりませんが。

(座長)

元々、鳳来中学校の統合の時の交通条件として、大代までバスを通すということでスタートしていることは聞いています。

(事務局)

地元に行くと言われました。

(座長)

多分ですけど、廃止されたのは乗る方が少ないからと聞いているんですけど、そうなんですかね。

そのときに、地元の方からすると、約束していたのにバスがなくなってしまった。どうやって中学校まで通うのかということになったら、滝上まで出て、そこからバスに乗るしかないということで皆さん自転車が出るようになったということがありました。地元の方からすると、やっぱりだまされたということがあって、今回また走るということになったので、どうせなら戻して欲しいというご意見だと思って聞いていました。

でも、それよりもすごく大事なことを落とされているなと思って聞いていました。四谷には千枚田がありますよね。今、観光課さんと公共交通の調整ってどういう感じですか。

(事務局)

特に定期的なものはありません。

(座長)

新城市さんとしてどうなのかは分からないけれども、千枚田をティーズで放映したり、宣伝流したり、万博の後のイベントでもメイン展示が千枚田なんですよね。何かやっていることが全然違ってしまっ

いるので、それをどうしますということなんです。地元の方の足っていうのは良いと思いますし、この説明も分かっているつもりです。

でも、これでは観光に来た人が千枚田に行けないです。だけど市としては、千枚田を広報していたりします。さっきも言われたけどツールなので、そこをどう考えるのかなど。新東名で来る方は自分の車で行ってもらえばいいと言えればそれまでかもしれないけど、地元でも千枚田を使った観光ってやっています。ウェルカムな場所なんですよ。そういうこともあるので、もし活かすことができるなら活かした方がいいんじゃないかと思います。それは別物だと言われれば別物になってしまうと思うんですけども。田村さん、どうですか。

(田村委員)

自分はここの地理的な関係がよく分からなくて、千枚田に行けるようになったのかなと思ったのですが、連谷小学校からだとな千枚田は少し遠いということですか

(加藤副会長)

連谷小学校まで行けば、5分程楽しみに歩いていただければ千枚田へ行けます。

(田村委員)

今、小学校の跡地利用も考えているということだったので、すごく千枚田にとっては良いなと思いました。通学とか通勤以外に。そうすると日曜日に走って欲しいなと思います。

(事務局)

今は登校日しか走っていないのですが、今回の案では月曜日から土曜日までに伸ばしたいと考えています。

(座長)

先生はあらかじめ見てくださっているということで、運行とかに関しては特に問題はないですか。

(加藤副会長)

細かい所はありますが、大枠は良いです。ですが、根本的な話として、この会議で出す案としては、きちんと来年の4月から連谷地区に入れると決意して欲しいと思っているんです。今の議論はそうではなくて、連谷小学校での折り返しがまだ地元の方と話ができていないので分からないとか、上の方の昔の転回場は道路なので協議しないと分からないとかという、要するにやらないことを考えているのではないかという議論に見受けられたということです。

小学校が無くなる時、小学生はスクールバスでいいけど、その小学生も含めて高齢者も小学生も乗れるバス路線を入れることをこの公共交通会議で決める。それをできないかということなんです。

今の話を聞いたら、そういうつもりだったけど、出来ないことが多いので、また考えましようかみたいな結論ですので、今日来た意味がまったくないです。

僕は今日、その決議を両手で「はい」と手を挙げに来たんす。別に跡地利用と言っても、何年もか

かることでしょう。1年や2年はいいいわけでしょう。暫定でもいいでしょう。もちろん入って固定化したら困るっていうのはあるかもしれないですけど、他の場所も無いのでまずはここに入れる。入れるんだったら暫定でもここを使うしかない。これはやりましょうよ。入れたらもっと現実的になってくるんじゃないでしょうか。もっと上の方まで乗り入れる話とか。連谷地区で、どこも転回できないならばどうしようもないですけど、そうでもないわけです。ただ小学校は何年か先は分からない、というか僕はそうだとすると、跡地利用の中にちゃんと入れて欲しいなと思います。連谷小学校の跡地計画の中にバス停をちゃんと入れて、そこで待って乗れるようにしましょうという、積極的な提案をして欲しいです。

そうなった上で、上の方まで行くということだったら、その区間だって乗る人もいます。歩いたことありますか、連谷小学校から上の方まで。ハイキングですよ。中学生は学校の行事とかであるいています。あるいはおじいさん、おばあさんもしているかもしれない。そうやって、したい人はすれば良いんですが、したくない人までさせてはいけないので、バスを入れるということです。4月にできない理由はあるんですか。

(事務局)

4月にやりたいです。

(加藤副会長)

やりたいんじゃないくて、やりますで。

(事務局)

やります。

(加藤副会長)

やりましょうよ。やりたいとか言ってないで。この全員でやりますと。連谷地区の方は歓迎でしょう。ただここがずっと終点というのはちょっと待ってくれということだけじゃないんですか。

(事務局)

先生がおっしゃったように、小学校にバスを入れる提案をした時に、一回決まってしまうと、中々動かせないという意見がありました。

(加藤副会長)

例えば一年とかで区切って、その一年の間に本当の終点をどこにするかということを決めればいいじゃないですか。僕の中では、それよりも滝上と連谷小学校の1.5キロの間に、もう1,2個バス停を置けないかな、ということを考えています。あるいはフリー乗降。そういうことをやったほうが良いんじゃないですか。連谷小学校に入れて、その上で1.5キロをどうするか考える。これは置けなくてもしょうがない。でも走り始めれば、住民の皆さんから何でここで乗れないんだという意見が出てくると思うので、その時に道路管理者さんとか警察さんから、ここ危ないからという話が出てきて、整備しようとか民地使えないかということになるんです。こういう意見は走っていないと出てこないです。想

像がわからないんです。今の段階ではとにかく走れでしょう。とにかく走れとなったら、昔のところまで走れというのは当たり前です、想像がつかないですから。連谷小学校まで入れれば、なんでここにバス停がないのとか、とりあえず今はここだけ、もっと上まで伸ばそうと言う話になってくるでしょう。この人たちは乗れるようになったけど、上の方のおばあさんは乗りたいけど歩くのがきつから乗れないという具体的な話になってくるんです。

僕は新城市の合併前から関わっていたと言いましたけれど、その頃からの夢です。連谷地区にバスを入れることは。十何年やっていて、ようやくできそうになっている。すごくうれしいです。だから、そんな些末なことで延期をしないようにしましょう。入れましょう。

それよりもどれくらい乗りそうですか。月から土で入れて、一週間で2、3人しか乗らないっていうのはいやですから。千枚田まで行ったほうが良いし、その時は日曜日に入らないのは考えられないので、入れないといけません。そうした場合にターゲットとしては名古屋の人ではなく、東京の人を考えないといけません。東京の人をターゲットとしたときに東京の人が来たくするような戦略を考えないといけません。千枚田とかで売り出しているところって、皆辺りな所ばかりですので、その中でここは行きやすいとなるかもしれない。とりあえず入れれば、たまに調べた人が乗るとは思いますが、本気でやろうとすると、本当に考えないといけません。

でも、千枚田をバスが走るっていいじゃないですか。全国で見た時に、意外と少ないです。それもとりにあえず入れないと始まらないです。今の話から考えると「連谷小学校（千枚田入口）」とかいうバス停の名前にするとかいいですね。全然、入口から遠いじゃないかとか言われる危険を顧みず、そういう名前にするとか。というより、もう小学校じゃないですよ。もうなくなってしまうので連谷小学校前はおかしいですよ。その時に千枚田という名前を入れたらいいんじゃないですか。そしたらお客さんもなんで行かないのかと言ってくると思います。そうやって、やっていけば良いと思います。

(座長)

僕は別に否定的なことを言おうと思っているわけじゃないのですが、せっかくなので、小学校の転回スペースをできないと言うところを、真っ平らにしまえばいいと思います。そして、千枚田を拠点にして商売をやってもらってもいいと思います。

観光課と相談してもらおうと分かりますが、東京を朝、新幹線に出て豊橋から伊那路号に乗って本長篠に着くと、このバスに乗って千枚田に行けるんですよ。千枚田に行けて、それから程良く疲れたくらいの時間に帰りのバス乗って、本長篠まで行って、そこから鈍行に乗れば、日帰りで東京に帰ることができるんですよ。このバスだけで一日で東京から千枚田に来て帰ることができるんです。なので、観光提案を組んで乗る人をいっぱい作って豊鉄さんが儲かって仕方がないという風にしないと駄目です。そうすると増便するきっかけにもなるので。地元の人でもウェルカムなので、お客さんが来ることは歓迎してくれると思います。だから、小学校をそうやって使って欲しいという提案をするのもいいのかもしれないです。

(渡邊委員)

一点よろしいでしょうか。先程、長縄委員も言われたように、安全運行という部分でワンマン運行した時に、何度か繰り返すというのが、少し気になります。その辺を何とか改善ができないかなと思いま

す。実車を持って行って、何回で切り返せるかっていうのを見ていただきたいと思いますし、今、座長も言われたように状況が改善されて、スイッチバックをしなくても良いようになれば、運転手さんの負担も減ると思います。ぜひ何とかして欲しいと思います。

(座長)

スイッチバックっていうのは切り返すということですよ。ぐるっとまわるようにするのが一番良いということですか。

(渡邊委員)

この文章を見ると、何度か切り返すという書き方になっているものですから、運転手さんにもし何かあったときに一番叩かれる部分ですので、安全運転をするという意味では一番大事だと思います。

(座長)

ありがとうございます。真っ平らにしちゃうって言うことで、別に良いとは思いますが。

(事務局)

現在は市の大型バスが小学生の送迎のために、この場所に入っているのは聞いています。

(加藤副会長)

もう一つ聞きたかったのですが、スクールバスはどこで折り返すんですか。スクールバスは折り返して良いけど、路線バスはダメっていうのは変ではないですか。

(事務局)

もう少し小さいマイクロバスの29人乗りで、地区内を回るような形になると思います。

(加藤副会長)

そういうことをトータルに考えないと。スクールバスだけを考えてはだめだということです。先程の話の続きですが、8時56分あるいは9時3分のひかりに乗って浜松で乗り換えると、豊橋に11時16分に着いて、そこから伊那路号に乗って本長篠に12時43分に着くから、このバスに乗れます。それで帰りも帰ることができる。いいじゃないですか、これで宣伝できる。

(座長)

これでツアーが1個できたので、豊鉄バスさんのバスにラッピングしてもらいましょう。

(加藤副会長)

千枚田に13時20分着だから、4時間いることができます。

(座長)

画期的ですよ。千枚田に公共交通で行けるというのが皆の積年の願いだったんです。他にご意見をお願いします。佐宗先生何かありますか。

(老人クラブ 佐宗委員)

加藤先生のご発言を聞いて、私もまったくその通りだと思いました。連谷小学校のバスの方向転換がどうのこうのと言うのは枝葉の問題で、地元の子供やお年寄りにはバスを入れて欲しいと希望されているという説明がありました。

まず、とにかくやってみる事です。連谷小学校の跡地の問題に関しては、私の地元の作手にある廃校になった小学校の跡地も何になるかまだ決まっておられません。そこから分かるように、小学校の跡地問題は決まるのに2年から3年はかかるものだと思います。だからとにかくやってみる事です。やってみて跡地利用でバスが方向転換をすると利用に支障があると言った場合には、県にもお願いして上の方の広い所を安全にできるような方策を考えれば良いと思います。枝葉の問題でつかかっていたらこのような会議をやる意味はないと私は思うので、まずはやってみる事です。

(座長)

ありがとうございます。1個ずつやるのが良いと思います。安全は確保するという事を前提に、バスを入れましょうということで、皆さん良いですね。まず、一つこれはOKにさせていただきます。後、もう一つ、布里と塩瀬の方面のバスですが、こちらについてもご意見をいただけたらと思います。

僕は高齢者の方のニーズが結構出てくることがありがたいと思います。先程話していた連谷の方も布里の方もそうなのですが、高齢者の方が、この頃軽トラで危ない運転をして、ミラーをこすっているということが頻繁に起きていたと聞きました。今日、警察の方が来ていたら伺いたいと思っていたんですが、これからバスに乗るくせをつけてもらうために、高齢者の方にバスに無理やり一回乗ってもらうことはできないか、と思っています。ぶつかってこられることが結構あったりすると、皆さんの安全が脅かされるということになるので、こういうことを考えたりします。

(事務局)

バスに慣れてもらうということですね。

(座長)

そうです。佐宗先生はお元気なので運転は全然大丈夫だと思うのですが、どうですか。

(老人クラブ 佐宗委員)

自慢じゃないですが、私もこの頃自分の車の左側をガードレールにこすり付けたりすることがあります。やはり80という歳は車の運転は考えないといけないと思います。ただ、今車をとられたらここにも出てこられないということになってしまいます。生活も成り立たなくなってしまうので、乗れるうちはしばらく乗りたいと思いますが、自分でも気を付けないといけないと思うことがありますので、やはりバスで自由に行き来ができるということが一番理想だと思います。

(原田委員)

うちの方は、道が狭くてカーブがたくさんあって、獣がたくさん出ます。そんな中でも、たくさんの方が車に乗られています。その中で、塩瀬線の島田地区の方が言われるのは、バスに乗るのはいいけど決められたバス停という枠があると、そこに行くまでに息が切れてしまう。住宅も点在しているので、それをこれから考えていただきたいと思います。

それから、自分の家から300mくらい離れたところが通行止めで、塩瀬線と布里田峯線の区分けがちょうどある所ですが、山のつなぎ目のところが狭いので、運転する人も大変な道だと思います。通行止めが解除されて、その道がつながると、そちらにも年配の方が見えて、よく言われるのは「俺ら今は車に乗れるけど、もう少ししたら乗れなくなる。どうしたらいい」ということです。やはりバスを利用している人は、ある程度、足腰が不自由な人だと思いますので、バス停まで結構な距離を歩くということになると、おのずとバスを利用しなくなってしまうのかなと思います。その辺も合わせて今後の課題として考えて欲しいと思います。

(加藤副会長)

細かいことですが、塩瀬線が西小学校経由と只持の左岸側とあります。おそらく今の考えだと、布里田峯線も走るときは布里田峯線が西小学校経由なので、只持の左岸を走ることにしていると思うんですが、その辺はどうですか。左岸は走ったほうがいいですか。

(事務局)

只持下バス停では、小学生の子がいるということで走らせています。その子が中学に上がる場合に、小島の近くの只持中まで歩いてこななければならないという状況になりますからそれで走らせています。子どもがいる家庭はそこ一軒だけです。只持下の方が只持中まで歩くとかなり距離がありますので、先生がおっしゃった左岸側を走らせているという状況です。

(加藤副会長)

2台一緒に走るということであれば、片方は左岸を走ってもいいと思いますので、その辺の考え方を明確にしておいた方がいいと思います。たくさんの方がおられれば、完全に塩瀬線は布里田峯線と一緒に走る時は全部、左岸を走って、長楽とか玖老勢で乗り換える、塩瀬線で大海から来る場合は乗り換えていただくということに徹底すればいいのかもしれない。ただ、塩瀬線で大海から来る方で西小学校降りたいということも多いと思いますので、どちらが良いのかというは分からないですが、今の説明だと、どれが経由しているのかということがよく分からないと思ったので、そこは確認して、地域の皆さんと話し合っただけで決めるのが良いのではないかと思います。

後、かなりこれは接続するじゃないですか。例えば、新城市民病院で、先程の連谷小学校行きに乗ったとすると、玖老勢で乗り換えれば、塩瀬も上島田も大輪にも行くことが出来る。今の時刻表だと、それが新城市民病院では分からないですね。この時刻表だけ見ても、ここからこう乗り換えるというのはあまり分からないわけですが、特に鳳来西地区の方は乗り換えることでほとんど全部の路線に接続しています。だから、見た目としては玖老勢とか大海にしか行かないけど、実は新城市民病院まで行けますよとか、逆に新城市民病院とか栄町、本長篠でも、このバスは連谷行きとか田口行きとか書いてあり

ますが、鳳来西地区にも行けますと表示をすとか、時刻表に書くというのを徹底するというのをや
っていかねばいけないと思います。

だから、来年4月に時刻表を作るときには、そういう配慮をして作る、調べないとどれに乗り換えた
らいいかわからないんじゃないかと、ここで乗り換えられると書くということをした方が良いでしょう。今は
何も書いてないでしょう。バスマップの時刻表面に「こちらのバスに乗り換え可能」ということを書い
た方が良いでしょう。そのくらい完成度は高くなっているということです。通常、あまり考えないで
作ると、ここ5分ずらすと作れるのではないかということが出るんですが、一応それは全部出来ていて、
なので乗り換えのことをしっかりと書いて欲しいということをお伝えしておきます。

(座長)

長縄さん、インターネットでバスのどこからどこまでっていう乗降検索が豊鉄バスさんではできませ
よ。あれはSバス路線は全て入っているんですか。

(長縄委員)

Sバスで入っているのは、豊鉄バス路線だけです。

(座長)

他のインターネットの検索サイトとかは、時刻表を提供すると入れてくれたりするんですか。

(加藤副会長)

豊鉄バスさんは今、一般の検索サイトは何か登録されているんですか。

(長縄委員)

一般のものは入ってないです。

(加藤副会長)

エキスパートとかナビタイムは、情報提供すれば入れてくれます。

ファイル形式での提供がいいです。実はお金を払っての登録ではなくて、データならいくらでもく
ださいというのが基本です。ただ、ダイヤ改正をきちんと教えてほしいということがあります。ダイヤ改
正したのにデータが更新されないと検索サイトに苦情が入る。例えば、豊鉄さんに言われても、それは
勝手に検索サイトがやっているだけなので、うちは知らないと言われたら終わりだということです。

だから、その協力関係がないといけなくて、ダイヤ改正したときに検索サイトにも、ちゃんと伝える
という体制を作ることができれば可能です。新城市の路線も、その体制を作ることができれば入れるこ
とが出来ます。中部運輸局がその支援をやっていて、どういうファイル形式にしたら検索サイトは作
業が楽かということを知っている人がいて、運輸局が仲介・支援する仕組みがあるんです。

(座長)

東京から島田と検索するだけで、検索できるということですよ。

(加藤副会長)

ものすごい量が出るとは思いますが。検索サイトは全国の停留所を対象にしているので、例えば上島田と検索しても、全国に100カ所くらいあります。それだと分かりにくいので、さっきも言いましたけれども、四谷千枚田とつけておかないとだめだというのは、そういうことなんです。四谷千枚田と入れたら一発でパッと出ると、選ばなくてもいいと。そのように停留所の名前もつけないといけない時代になっています。学校前とか農協前とか局前とかそのような名前だとだめということです。

(座長)

ありがとうございます。それでは、1番の鳳来北西部地区路線の見直しについては、皆さんご了解いただいたということでしょうか。ありがとうございます。よろしく願いいたします。それでは2番の新城市地域公共交通網形成計画について、事務局さんよろしく願います。

(事務局)

それでは、協議事項の(2)、新城市地域公共交通網形成計画策定について説明させていただきます。協議資料2をご覧ください。

始めに、今回公共交通網形成計画を策定する目的としましては、1で記載しましたように、本市では平成20年2月に「新城市地域公共交通総合連携計画」を策定し、市民にとって満足度の高い新たな公共交通システムの構築を実現するため、様々な取組みを行ってきましたが、計画策定から6年が経過し、新たな課題の顕在化や周辺状況の変化が起きていることから、将来にわたり市民が利用しやすく持続可能な公共交通体系を確保・維持していくため、一層の効率的・効果的な公共交通体系を検討する必要性を感じました。

そこで、こうした背景を踏まえながら、本市の概況整理や現状把握、実態調査、課題整理と分析などを行うとともに、地域住民が公共交通に関心を持ち、地域で公共交通を守り育てる仕組みの構築に向け、地域住民の気運が高まる方策を整理し、これらの内容を踏まえた「新城市地域公共交通網形成計画」を策定し、これを基に、市民が利用しやすく持続可能な公共交通体系を確保・維持していきたいと考え、網形成計画の策定を行うこととしたものです。

次に2策定期間につきましては、平成28年12月末までに策定したいと考えており、この網形成計画の策定についてはコンサルタント業者の力を借りて進めていく予定です。現在、今月末までに指名競争入札により発注できるように準備をしています。

次に、委託する主な業務内容としましては、1ページから3ページに記載してあります、①から⑦の業務内容をお願いする予定です。

- ①新城市の概況と公共交通の現状把握
- ②実態調査の実施
- ③公共交通を取り巻く課題抽出・整理
- ④具体的な交通施策の検討
- ⑤網形成計画(案)の策定
- ⑥地域公共交通会議の運営支援

⑦パブリックコメントの実施支援

そして、この網形成計画策定業務を迅速かつ適切に進めるために、副会長である加藤先生にお願いをしまして、発注時の仕様書の中に、事務局だけでなく加藤先生とも常に連絡を取りながら業務を進めていくこと、という一文を記載させていただきました。

今後業者が決まり、策定に向け動き出しましたら、この公共交通会議で適宜報告及び議論をお願いし、完成に向け事業を進めてまいりますので、これまでのような路線の見直しに関する議論などに加え、計画策定に関するご意見ご指導も今後お願いすることとなりますが、どうぞよろしく申し上げます。以上で説明を終わります。

(座長)

ありがとうございます。それでは丸山さん、何かありましたらお願いします。

(丸山委員)

先程の話に戻ってしまうのですが、私は実家が鳳来寺で、鳳来寺に行くと「四谷千枚田までどうやって行くんですか」と聞かれるお客様が特に日曜日に多いです。先程のアンケートは、現在利用している地域住民の方が対象で、外から来る方の意見が入っていないので、外からの意見が反映される仕組みができればいいと思います。平日をやめて休日にバスを出すとかそういうことも考えられたら良いかと思えます。

(加藤副会長)

少しだけいいですか。鳳来寺に来た人に聞くとか、本長篠の駅あたりにいる観光客の方にアンケートをとるということが、まず思いつきました。後、先程、検索サイトの話をしたのですが、実はログを全部取っており、例えば、四谷千枚田ってどれだけ検索したのかいうことを取っています。検索サイトに掲載されれば、そういったことが分かってきます。例えば、四谷千枚田に日曜日にどうやっていくかという検索が年間に120ありました、とか。そうすると日曜日の千枚田行きのバスはないですね。ログが取れるようになると、潜在的にどれくらいの人が行こうって考え、でもバスがなかったので来なかったということが分かるようになると思います。

新城のバスのデータを出しますので、そのかわりにデータを教えてくださいと言うと、潜在的な人数を知ることができると思います。利用はしたいけど、出来ないという人を連れてこないといけないので、来ている人だけに聞いてもダメなわけです。でも、東京の1000万いる人たちに100枚アンケート配って調査しても、ほとんど新城がどこにあるか分からない人達です。こんな人たちに聞いても意味は無く、実際に新城に関心を持って、来たいと思ったけどあきらめたって人たちをどうやって把握するかが大事なわけです。それを把握する技術も最近は出てきています。

そういったことは観光協会さんがやってないですか。やっぱり外からの人というのは観光の部局と一緒に考えた方が良くと思います。今ログを取るということにしても、あまりお金はかかりませんので、委託した後にやっていくと良いと思います。本長篠とか鳳来寺のアンケートは取った方がいいですね。本当だったらここに行きたかったけれども、何かあったからやめたということが出てくる可能性がありますよ。

(原田委員)

実際うちの方に広見ヤナがあるのですが、外から来た人からは、長篠とか新城までは来ましたが、そこからのアクセス方法は何かありますかと聞かれます。そのときは「すみません。土日にバスは走ってなくて、そこらへんでタクシーを拾ってきてください」と言うしかありません。本当にタクシーで来た方もいるんですが、かなり高いお金を使って来られたということでした。

前にも一回、言ったことがあります。豊鉄さんの方でそういうツアーを組んでいただけないかなと思っております。うちは名古屋から来る人が結構多いです。そういう人たちは作手の道の駅に寄って、それから海老とか四谷をまわって来ます。そういう人たちの中には、公共交通を使って来たことがあるけど、途中で断念をしてしまったという方がいました。

(座長)

僕はとにかくお金が落ちるようにしてほしいですね。そうすれば、皆元気出ると思うんです。だからお金が落ちるようにしてほしいとずっと思っています。豊鉄さんもヤナ場に「今日500人行くんですけど」とはっきりと人数の分かる連絡があれば、バスを走らせてくれますよね。

(長縄委員)

都合もありますので、即答は出来ませんが。

(座長)

そういった予約をとれるようにしてもらいましょう。予約をとって、送らないといけないということになれば走りますよね。そういう制度を作っていくといいと思います。もちろん地元の交通のことなので、地元の皆さんにお金が落ちるといって何かをやっていくと良いと思います。

(事務局)

今の話と関連しますが、今回、布里田峯線と塩瀬線を月から土までの運行にしたいと考えています。

(加藤副会長)

後は人数的に乗れるか乗れないかだけです。

(事務局)

そうですね。布里の方だと29人まで乗れます。

(座長)

渡辺さん何かありましたら、アドバイスをお願いします。

(渡邊委員)

今回、時刻の変更が大きくあるんですが、ダイヤはきつい運転にならない形でうまく組めたというこ

とでよろしいですか。

(事務局)

運行責任者の方にも書類を見せて、チェックしてもらいました。その上で、概ね行けるというお話をいただいております。豊鉄さんの路線につきましても、案を作り実際にチェックをしてもらい、社内で確認をもらったものを今回の会議で提示しております。

(渡邊委員)

きついダイヤになりますと運転手の方にかかる負担も大きくなってしまいますので、そこには十分注意してお願いします。

(小林委員)

愛知県でも、今年と来年の2年で「愛知公共交通ビジョン」というものを作らせていただく予定になり、私はその担当をさせていただいていますが、4月から担当させていただいているものですから、色々と不勉強なところもあります。今日お話を聞いて、路線バスでそこに行けるということになると、観光地まで公共交通機関だけで行けるということになり、私たちがビジョンで取り組んでいきたいと考えていることに合致します。

公共交通は、これから人口が減少して少子高齢化が進むとともに衰退の一途になってしまう状況があります。その中で観光地までをうまく繋いで多くの人に乗ってもらうという取組みは、自分たちも考えていけないといけないと感じていたところであり、今日話を聞いて、非常に良い取組みがこれからされようとしているということで心強いと思いました。

長くなって恐縮ですが、県は今年の4月に地域振興部が振興部になり、観光元年ということで今年の4月からは観光局を新設して、観光振興課と国際観光コンベンション課という二つの課を作り振興部内に入りました。今日のような話を聞くと、そういう取組みの仕方があり、東京から四谷の千枚田まで公共交通機関だけで行ってしまうということは本当にすごいと思いました。また勉強させていただけたらと思います。

また、市町村さんとは連絡会議を年に数回やらせていただいて、情報共有をさせていただきたいと思っております。また何かございましたら、電話でもメールでも情報交換とか意見交換をさせていただきたいと思っております。

(竹下委員)

私自身は地域の方の足を確保するというのも、すごく大事だと思いますが、第一回の会議の際に加藤先生が言われた、「まちづくりにつながらなければ何にもならない」という言葉が心に響いておりますので、そのことをきちんと心に入れて、取り組んでいきたいと思っております。

(請井委員)

竹下部長と同じような内容ですが、公共交通はまちづくりの非常に重要なツールだと思っております。立場上もありますが、高齢者の足をどういう風に確保していくかということが心に残っております。佐

宗委員からもお話があったように、自家用車がどうしても必要な地域、バス停までどうやって行ったらいいのかわからない地域があります。そういったところを皆さんが使いやすい、住みやすい地域にしていくということを公共交通も含めて考えていきたいということを今日の感想として述べさせていただきます。

(高橋委員)

道路管理者という立場で参加させていただいておりますので、その立場から言わせていただきますと、利便性があがるということに関しまして、道路管理者から反対することはありません。しかし、利便性と交通安全という観点は違いますので、例えば以前上までバスが入っていたということであっても、そのバスは、今入れようとしているバスと大きさが違うと思います。また、その転回中に事故が起きた場合に誰の責任になるかという問題もあります。そういう道路管理者としての横からの視点で、例えばもっとバスが小さくできないのかとか、地元とか観光の方で土地を出してでも、安全を確保することができないのかとかいろんなことを言わせていただくことになると思います。

うちとしてもいじわるするわけではないですので、ここまでだったら、折れることが可能だろうなということであれば、公安さんの意見も聞かないといけないですが、これなら入れてもいいんじゃないですか、ということ言えると思います。後、地元の方ですので、皆さんご存知かと思うのですが、この四谷千枚田に行く道路は結構落石が多いです。時間150ミリを超えると、通行規制がかかりますので、そういう点も視野に入れていただきたいと思います。

(社会福祉協議会 佐宗委員)

小学校の話ですとか、観光の話も出ましたので、ぜひ担当の部局の方へ出席していただけるとありがたいと感じました。それから、バスマップですが、駅とかそういう観光客が来そうなところに置いて、こういうものが使えますよということをアピール出来ればいいと思います。後、最バス停まで行きたくても行けないような高齢の方とか障害の方とかも見えますので、次の機会にはデマンドみたいな方式も一度、検討されたいかがかなと思います。

(田村委員)

地域住民懇談会の開催支援とあるのですが、実際に開催するのは、来年度の話ですよ。

(事務局)

今年度から来年度にかけてですね。

(田村委員)

今年度も開催するかもしれないということですか。

(事務局)

そうです。

(田村委員)

地方自治区ということで、それぞれに協議会がありますが、地域協議会で公共交通の話題はなかなか挙がってこないです。挙がってこない理由の一つとして、参加される方が実際にバスを利用している方とか、当事者でないと課題とか現状というのが分からないので、議論になりにくいということがあります。地方自治区でやるのであれば、協議会の時に一度、時間をとってレクチャーをしていただくと、関心を持ってもらえるのかなと思います。今、児童クラブとか子どものことに関しては何度か来ていただいて、15分くらい話してもらいました。そうすると、それまでは子どものことが話題に上らなかったのが、その後から上るようになったので、そういうことをやった上で、懇談会を開催されると良いと思います。

(座長)

ありがとうございます。先生、何かありましたらお願いします。

(加藤副会長)

15分×10回の説明を自分ならどうやろうかということは今、考えていました。今月の始めに東浦でそういうことをやりました。後輩とかにも頼んでやりました。それは、おっしゃるとおりだと思います。何も話題提供とか情報提供がなくてやるということもできないです。加藤の言うことを聞きなさいということになっていますので、そういう権利を得る以上、助言するとかそういった義務を果たさないといけないと思います。

利用している方はバスの車内でアンケートを取ればいいんですが、利用していないけど潜在的に利用するかもしれないという人に、どうやって聞いて聞くだけじゃなくて取り込む仕掛けが必要だと思います。皆さん、新城のバスが便利か不便かということや、どうやったら使えるかということが分かっている方も多いいと思いますので、実際に話をすることでこうやって使えますということをきちんと説明して、ただ意見を取り入れるだけではなくて、お互いに共通理解をするということがこの懇談会では大切だと思います。

(座長)

私事ですが、2週間くらい前に郡上に鮎を食べに来いと言われて、郡上に行ってきました。その方は名古屋に出ている僕の友達なんですが、自分の地元で友達をわざわざ連れて行くんです。お金を落とさせることをするんです。そういう方がたくさんいて、飲んでいる間に地元の自分の友達も呼んだりするんです。郡上ハムとかセットにして全国に売り出したり、生活協同組合さんからたくさん買ってくれた人へ景品が郡上旅行だということもあります。

別に郡上を応援している訳ではないですが、郡上のやっていることはすごいと思います。空き家ができると地元で買ってしまいうんです、空き家を作りたくないから。それで、観光施設にするとかいうことをしています。そういう取り組みの現場に行ってみて、自分も新城市に友達を飲み連れてきたいと思いました。そういうことを皆でやれば観光客が増えるのではないかと思います。

あとITという話題が出ましたけれども、愛知県さんが協力してくださるということなので、ここまでの行き方を皆が分かるものにできると良いです。難しいと言われてしまったのですが、自家用車で来

た人が車をどこかに停めて、公共交通で観光すると良いことがある、ということをやると面白いなと思います。塩瀬は川がものすごくきれいで、その水で水割りのウイスキー飲めるくらいおいしいとか、そういったアプローチも良いと思います。先生はよく東京の人と言いますが、東京の人はこういったことを喜ぶと思いますので、豊鉄バスさんでツアー作ってください。

(長縄委員)

愛知県で奥三河の山村地域をまわるツアーをやっているという話を聞いたことがあるんですが。

(小林委員)

県の振興部の中に、地域政策課山村振興室があります。山村振興ということで、今年は国の地方創生のお金を使ってツアーを組んで、奥三河に観光バスを使って人を送り込み、一回行っていただくことで良さを知っていただくということをやっています。ただ、単年度で大規模なものは終わってしまうので、来年度以降はどうするのかということは山村振興室で考えていただくんですが、例えば、皆さんと協力して利便性を向上させて、公共交通を使って来ていただくようにするということも考えていきたいです。県はなかなかお金が出せなくて、口ばかり出してうるさいと感じるかもしれませんが、一緒になって考えていきたいと思っています。山村振興室では新城市だけでなく、設楽、東栄、豊根、豊田と岡崎の山村地域でそういったことをやっております。

(長縄委員)

ありがとうございます。そういう取り組みがあるなら、ぜひやっていただけるといいですね。

(小林委員)

山村振興室に聞いてみます。後、同じ振興部内に観光振興課という観光局ができました。山村振興と観光と交通が連携して、何ができるかということを考えています。お金がない中でメリハリつけてやっていきたいですが、やりたいなと思うことと、実際にやれることには落差があります。ただお金をかけなくてもできることはあると思いますので、職員の方に知恵を出していただいて、分からないことがあれば愛知県に相談していただいて、協力して良いものができればいいと思います。私も協力できるように勉強します。

(座長)

加藤先生が以前、本長篠駅から本長篠のバスターミナルまでの間があまりにも観光客の人が帰りたくなるような雰囲気だということをおっしゃっていました。だいぶ前の話ですが、あの酷さは一体なんだというのを言われたことがありました。やはり皆さんで協力して、皆でやっついていかないとできないと思います。全部菅野さんにやれと言っても無理です。これは皆でやっついていくことなのかなと思って、話題として出してみました。

(加藤副会長)

今日の午後北設楽の会議もありますが、田口新城線は本長篠経由ということになったので、いよいよ

本長篠駅とバスターミナルの間をどうするのかということの本気で考えないといけないと思います。旧態依然の昭和時代のやり方ではだめで、交通だけのことではなく全体で考えていかないといけない。その時に東京から来た人はどう思うか、とか中国から来た人はどう思うかということが大事です。

最近是中国から来る人も、1回目はツアーですが2回目は公共交通で来ます。そうすると公共交通で行けない所なんて、まったく目もくれない。東京の人もそうです。駅で降りてバスで行けない、バスで行けない時にタクシーない、「じゃあ帰ろうか」となってしまう訳です。帰る時にツイッター—facebookで「ここはタクシーもない所でした」と書いて拡散するという時代です。「本長篠駅で降りたらこんなに素晴らしかった」と書いてもらわなきゃいけない時代なんです。先程夏目さんが郡上の話をしましたが、郡上のどこですか。

(座長)

八幡の宿に泊まって、天然鮎のヤナ場までは車で行きました。

(加藤副会長)

郡上の7市町村は、それぞれおもてなしの発想が元々強い所です。7市町村が一緒になって、郡上ブランドを作らないと下呂や高山には勝てないので、かなり必死です。お互いライバル心も強くて、すごいところですよ。明宝みたいな飛びぬけた所もあって、それで刺激を受けているということもあります。参考にするといいですよ。

(座長)

すごく不思議で、郡上踊りが終わったすぐ後で「人が全然いないんです」と言うんです。でもいっぱい人がいました。その様子を見て、「人が全然いない」と言われるので驚きました。

(加藤副会長)

八幡がそんな感じなので、北に白鳥というところがありますが、そこは八幡なんかに負けていられないと言って、人を惹きつけているんです。そういう切磋琢磨はすごく大事です。なんか交通会議ではなくなってきましたね。

(座長)

状況はすごく似ています。郡上も道路が一本通ったことで活性化した所なので、新城と全く一緒なんです。だから本当にチャンスだと思うので、一緒に頑張っていきましょう。それでは閉じさせていただきます。

(事務局)

いろいろなご提言、ご意見をいただきましてありがとうございました。四谷までの路線の延長は、確実に今年度中にしてまいりますのでご協力をお願いします。それから、先生からもご提言いただいたように、バス停の名前も、連谷小学校がなくなってしまうものですから、「四谷千枚田入口」とか、全国に発信できるようなバス停にしていきたいと考えております。また、夏目座長さんからご提言のあった連

谷小学校を四谷千枚田に来た人たちが疲れたときに立ち寄るウェルカムセンターみたいな形にすれば、跡地利用としても有効に使えるのかなという気はします。個人的な意見ですが。

このことに関しては今後、地元と協議しながら決めていきたいと思いますので、意見をありがとうございました。

最後に形成計画に関することですが、市としては公共交通に乗っている人の意見は比較的吸い上げやすいんですが、先生からもありましたように公共交通に乗っていない人の意見というのも必要かと思えますので、策定をするにあたっては、このようなことも主眼に置いて、計画に反映できるような形で進めていきたいと考えております。事務局からは以上です。

それから、その他でありますけども、次回の第三回の公共交通会議を12月の下旬ごろに開催したいと考えております。日程を調整した後に改めて連絡をいたしますので、よろしく願いいたします。それでは、以上で本日の公共交通会議を終了とさせていただきます。長時間ありがとうございました。